

ActiveImage™ PROTECTOR 2022

～ 製品概要 ～

2026年10月

株式会社 アクティファイ

ActiveImage Protector 2022 とは

物理・仮想・クラウド環境の持続可能なITシステム バックアップソリューションです。

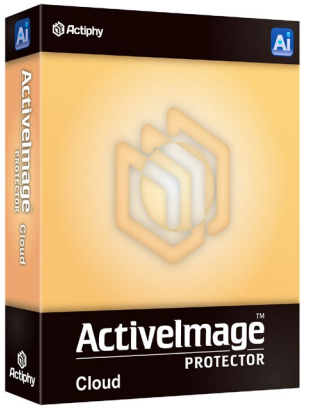
ActiveImage Protector™ は、Windows/LinuxマシンのOS、アプリケーション、データをディスクイメージで丸ごとバックアップし、システム全体を保護できます。緊急時には、バックアップから簡単な操作で迅速にシステム全体の復元が可能です。また、バックアップから仮想マシンとして直接起動することも、スケジュールで待機用の仮想マシンを作成しておき、即座に起動して運用再開を迅速におこなうことも可能で、幅広いニーズに対応しています。

ActiveImage Protector 2022 の特長

- システム全体を保護
- 自由度の高い復元
- 幅広いバックアップ保存先に対応
- バックアップファイルの安全性の確保
- 仮想環境への対応
- クラウド環境への対応
- 柔軟なスケジュールバックアップ
- システムの可用性
- 簡単かつ効率的な管理







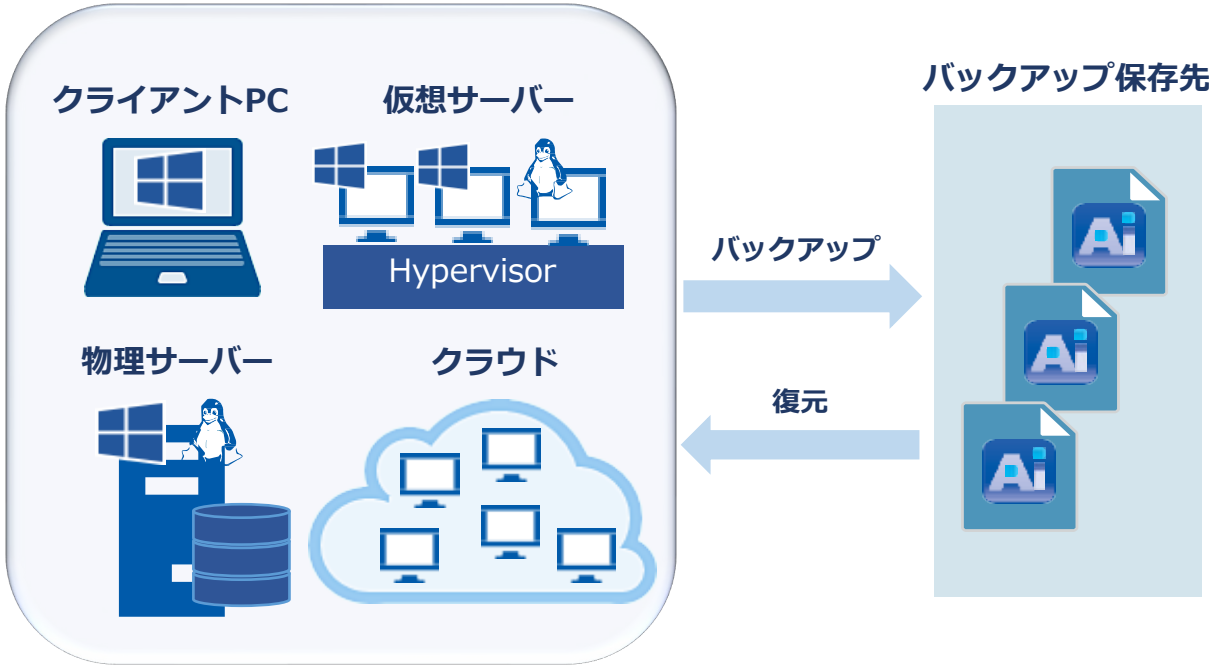
システム全体を保護

物理・仮想・クラウドのWindows/Linuxマシンのシステム・データを保護

システム全体のバックアップ

物理・仮想・クラウド環境のWindows/LinuxマシンのOS、アプリケーション、データを含むシステム全体をディスクイメージで丸ごとバックアップできます。
システム全体のバックアップから、ファイル/フォルダー単位の復元も可能です。

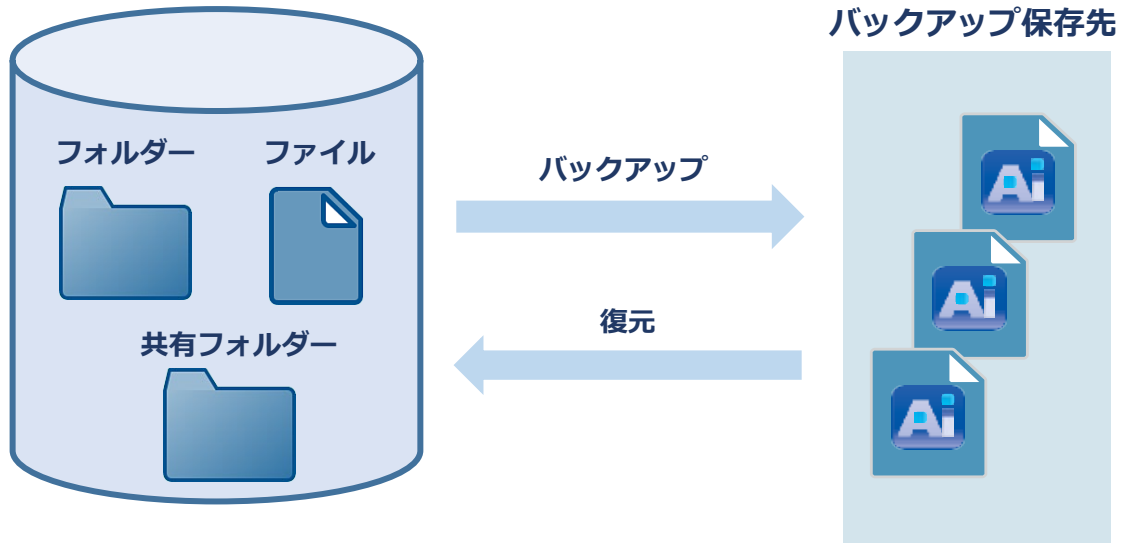
システム全体をバックアップ



ファイル/フォルダー単位のバックアップ

特定のファイル/フォルダーを指定したバックアップもできます。バックアップは、ブロック単位で1つのバックアップファイルに作成されます。また、増分バックアップや共有フォルダーのバックアップにも対応しています。

ネットワーク共有フォルダーのバックアップにも対応

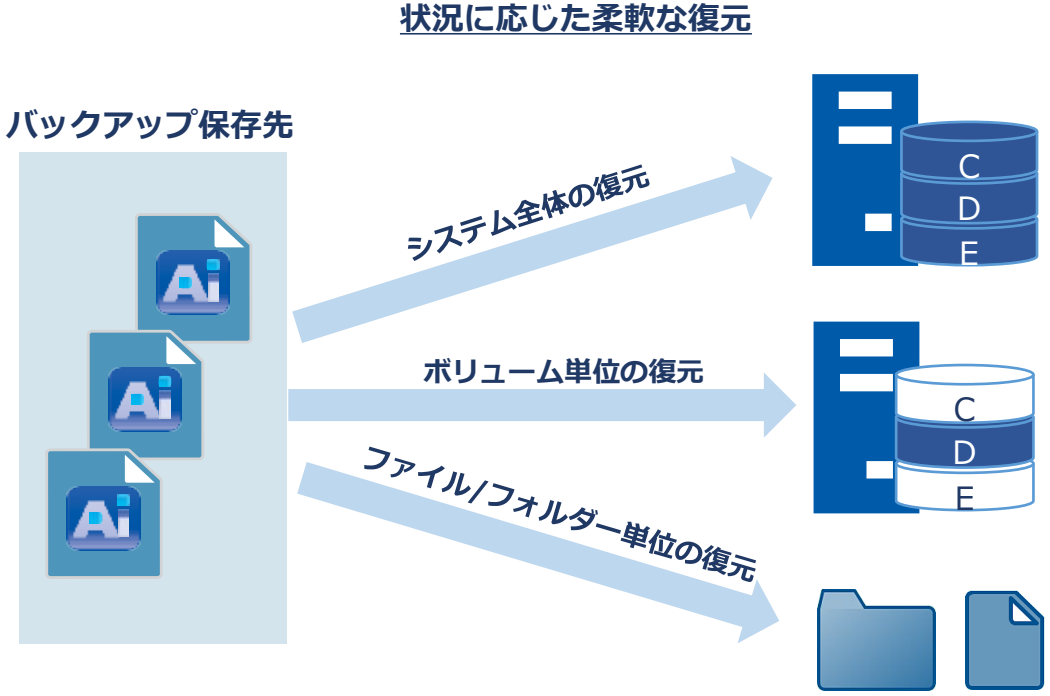


自由度の高い復元（1）

バックアップから自由度の高い復元が可能

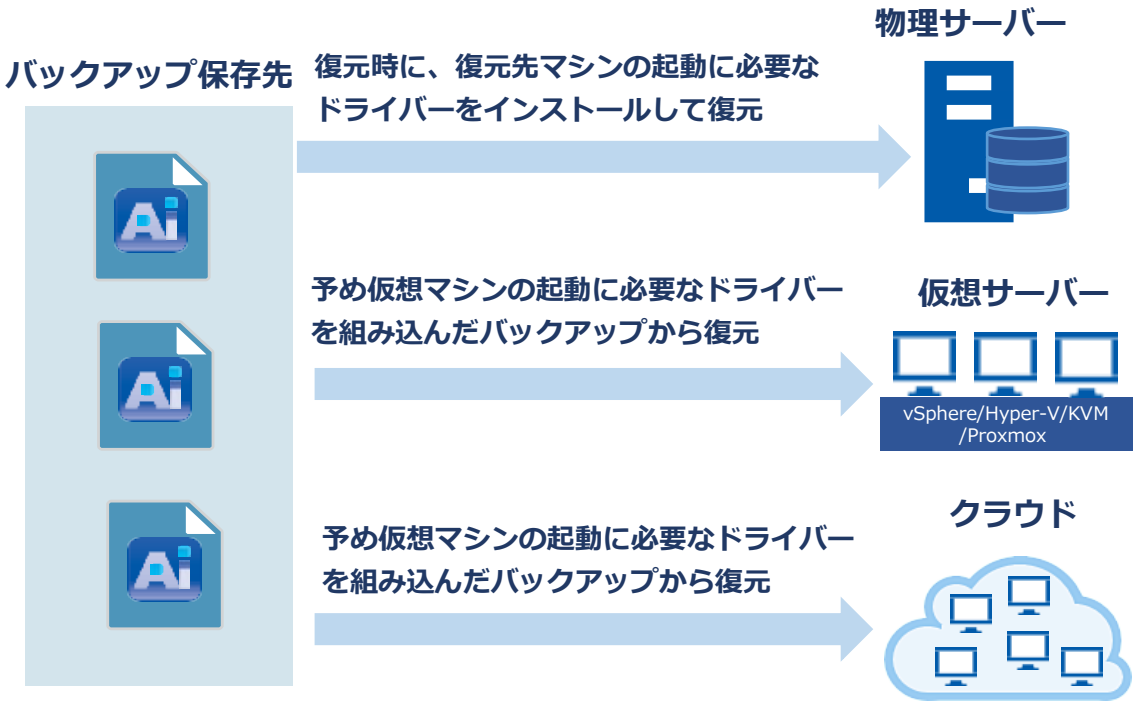
状況に応じた柔軟な復元

ActiveImage Protectorの復元は、非常に柔軟です。緊急時には、バックアップから簡単な操作でシステム全体を復元して、迅速に復旧できます。また、特定のボリューム、またはファイル/フォルダーを指定した復元も可能です。



別の物理/仮想/クラウドへの復元

緊急時には、バックアップから、別の物理マシン、VMware vSphere、Microsoft Hyper-V、Linux KVM、Proxmoxの仮想マシン、クラウドの仮想マシンへの復元も可能です。



自由度の高い復元（2）

復元時の利便性の向上と復元時間を短縮

ワンクリックでシステムを復元

QuickRecoveryは、起動時に自動的に復元環境を作成するため、起動環境のメディアを作成していなくても復元が可能です。また、復元環境の起動後にリカバリーポイントを指定するだけで、簡単にすぐに復元ができます。ソフトウェア的な問題で復元したい場合は、復元対象のマシンだけで完結しますので、復元作業の時間短縮になります。

通常のシステム復元

- 復元環境の起動
- バックアップ保存先の選択
- 復元ポイントの選択
- 復元先の指定
- 復元の実行

QuickRecoveryのシステム復元

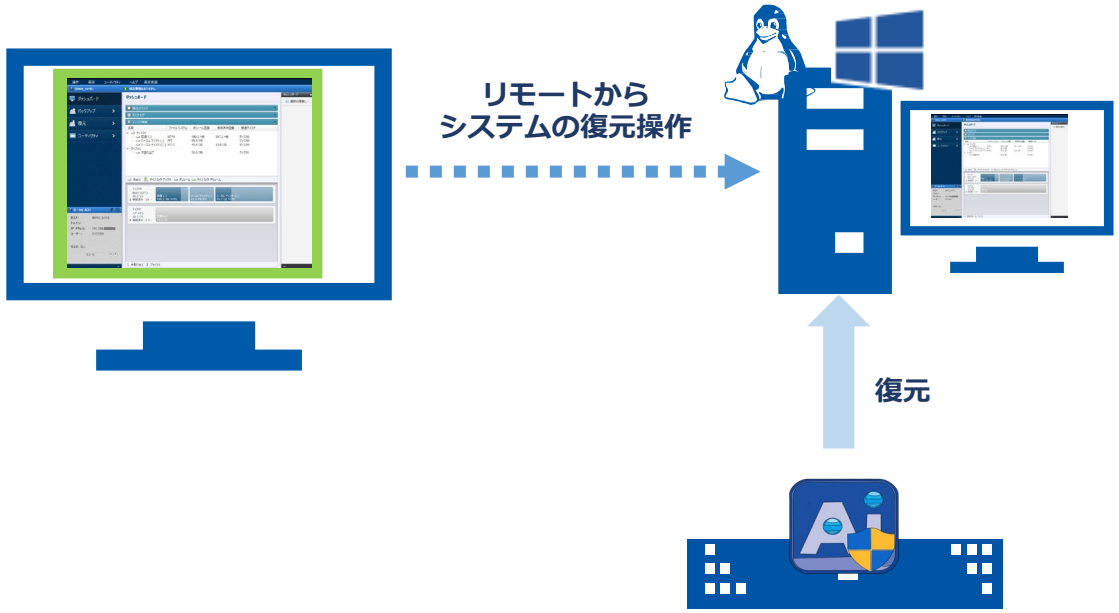
- QuickRecoveryの起動
- 復元ポイントの選択
- 復元の実行



システム復元のリモート操作

RescueBootを起動してリモートコンソールから、起動環境の操作ができます。ソフトウェア的な問題であれば、システムの復元対象マシンの前までいかなくても、システムの復元が可能です。

リモートコンソールからの復元操作



自由度の高い復元（3）

利便性の高い起動環境メディアの作成

起動環境メディアの作成（Boot Environment Builder）

Boot Environment Builderは、システム復元やコールドバックアップをおこなうための起動環境を作成することができます。Windows ADKをインストールすることなく、Windows OSに標準でインストールされているWindows RE（Windows 回復環境）を使用して起動環境を作成できます。また、必要なドライバーも自動的に検出され、選択するだけで簡単に組込めます。エンジニアの利便性の向上と作業時間を短縮することが可能です。

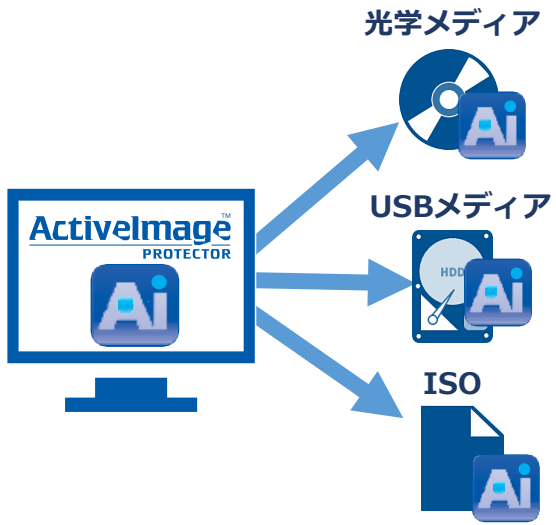
復元専用メディアの作成（Recovery Media Maker）

Recovery Media Makerは、対象マシンのバックアップファイルを組み込んだ復元専用メディアを作成することができます。復元専用メディアから、コンソール内の[R]ボタンを押すだけで、簡単に復元をおこなうことができます。また、復元専用メディア単体で復元できるため、例えば復元時にネットワークが使用できず、共有フォルダーに接続できない場合やUSBメディアが持ちこめない現場でも、すぐに復元作業を開始できます。

Boot Environment Builderによる起動環境メディアの作成



Recovery Media Makerによる復元専用メディアの作成



復元専用メディアの操作画面



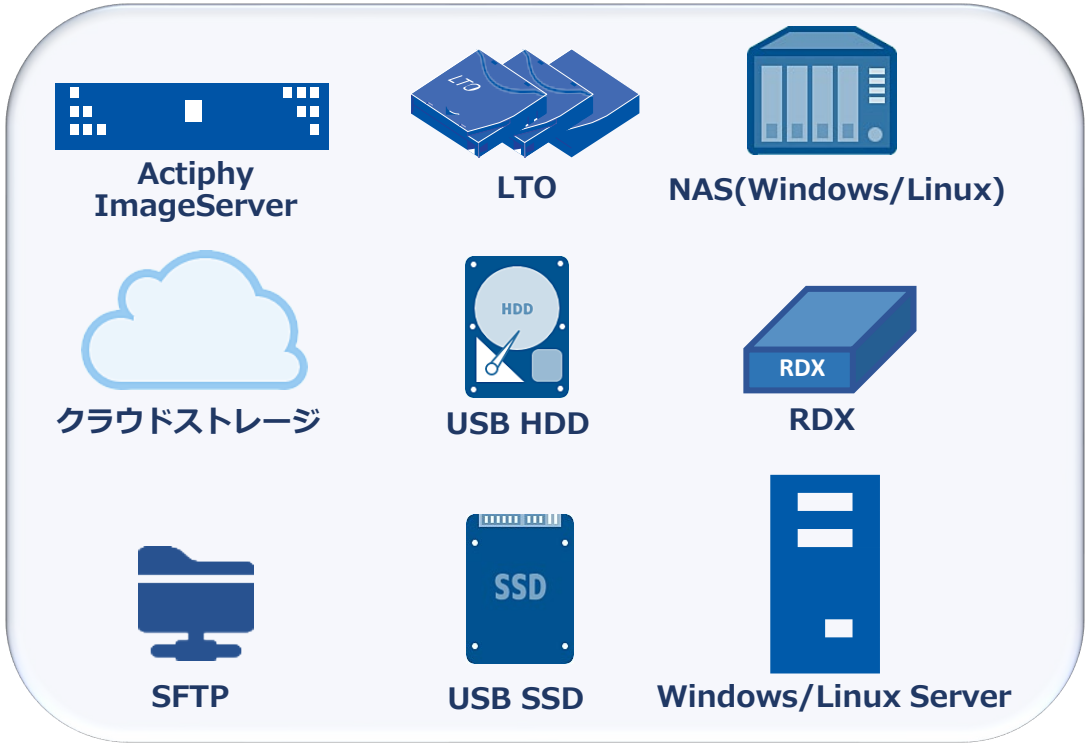
幅広いバックアップ保存先に対応（１）

システム構成や目的に合わせてバックアップ保存先を自由に選択が可能

幅広いバックアップ保存先を利用可能

ActiveImage Protectorのバックアップ保存先は、USB HDDからクラウドのオブジェクトストレージに至るまで、幅広い保存先からシステム構成や目的に合わせて自由に選択して利用できます。

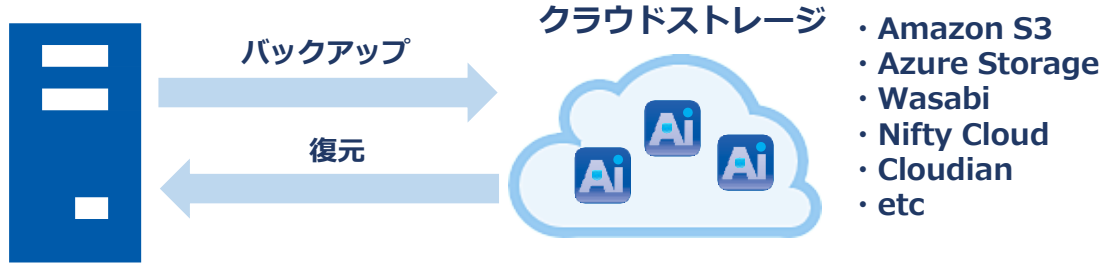
幅広いバックアップ保存先



ダイレクトにクラウドストレージにバックアップ

バックアップ保存先として、クラウドストレージに直接バックアップできます。また、日々のバックアップを、スケジュールで二次保存先としてクラウドストレージにレプリケーション(複製)することもできます。災害によるサイト障害やランサムウェア対策として、BCP(事業継続)に向けた対応がとれます。

クラウドストレージにダイレクトにバックアップ



二次保存先としてクラウドストレージの利用



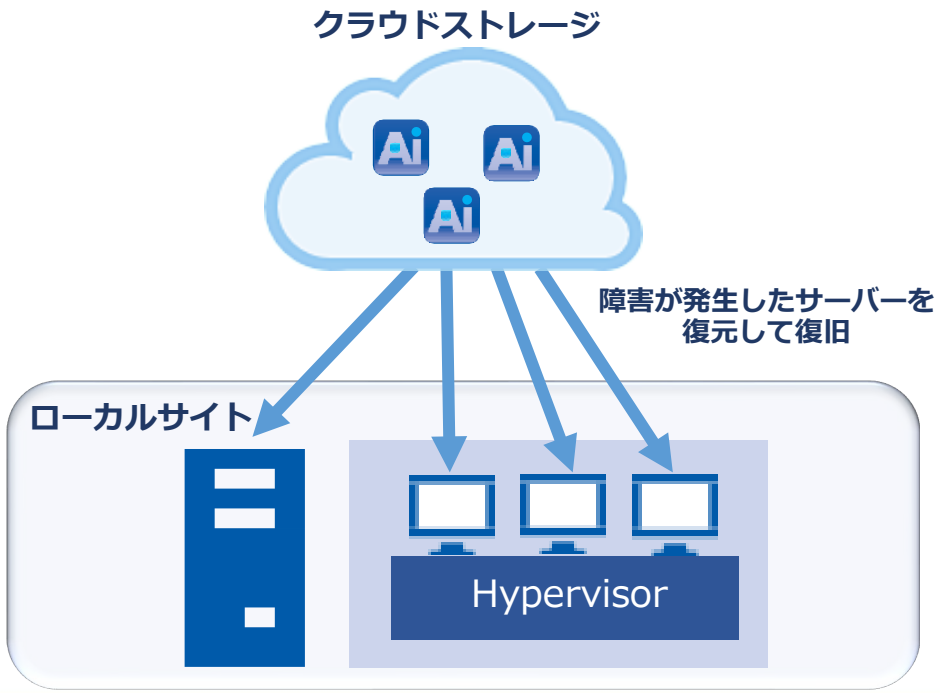
幅広いバックアップ保存先に対応（2）

クラウドストレージ活用によるBCP対策

ローカルサイトへ復旧

バックアップ保存先として、クラウドストレージを活用することにより、オンプレミスのマシンのバックアップからダイレクトに復元して、サーバーを元の状態に復旧できます。ローカルサイトに、バックアップをダウンロードするストレージを用意する必要はありません。

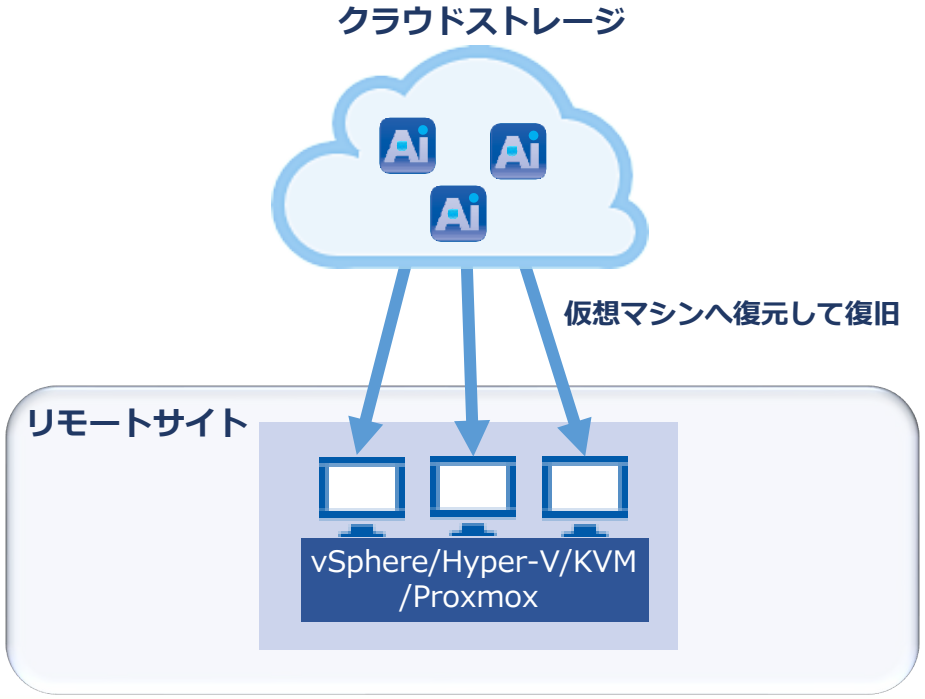
バックアップから障害が発生したサーバーに復元



リモートサイトへ復旧

緊急時には、一時的に復元用の仮想サーバーをオンプレミスのリモートサイトに用意することにより、バックアップからダイレクトにリモートサイトの仮想マシンに復元して復旧が可能です。抵コストで実現可能なBCP策定として活用できます。

バックアップからリモートサイトの仮想マシンに復元



幅広いバックアップ保存先に対応（3）

ActiveImage Protector用のバックアップストレージ： Actiphy ImageServer™

Actiphy ImageServer™は、サーバー上に「バケット」を作成し、ActiveImage Protector™専用のバックアップ保存先として利用できます。ActiveImage Protector™とのバックアップ通信にはQUICを使用するため、バケットへの保存にWindows共有を経由する必要がなく、保存先を共有フォルダーとして公開せずに構成できます。また、バックアップデータの保存に必要なストレージ容量を大幅に削減する「重複排除機能」と、結合、レプリケーション、検証、起動確認などのイメージ管理タスクを効率的に運用できる「ワークフロー機能」を搭載しています。

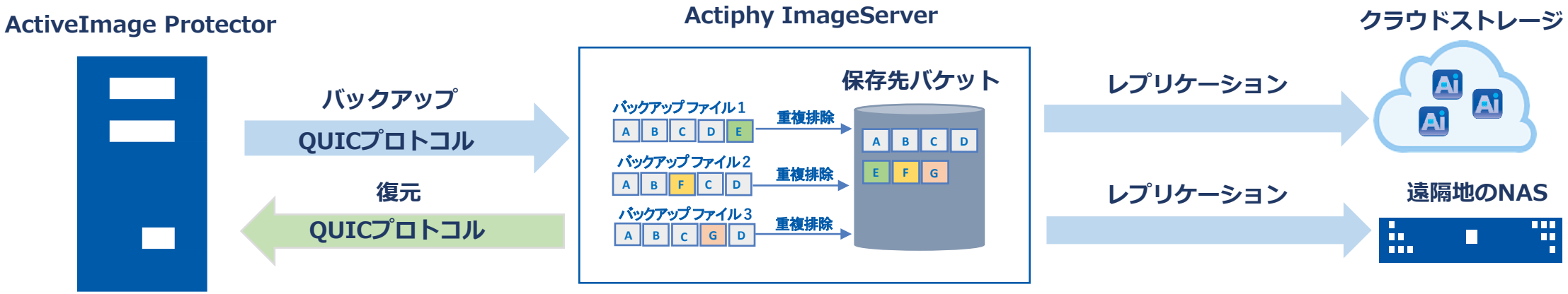
保存先のストレージ容量を大幅に削減

「重複排除」機能により、バックアップデータをブロック単位に分割し、バケット内にすでに保存されている同一ブロックを除外して保存します。これにより、同一データの重複保存を抑え、バックアップデータの保存に必要な容量を大幅に削減できます。また、ActiveImage Protector™の重複排除圧縮と組み合わせて使用することもできます。

効率的なバックアップイメージ管理

「ワークフロー」機能により、結合、レプリケーション、検証、起動確認などのイメージ管理タスクをステージとして登録し、処理順序や実行時間帯を設定できます。例えば、バックアップ後に検証、夜間にレプリケーション、週末に起動確認を実行するなど、目的に応じた処理を設定できます。ステージはドラッグ＆ドロップで順番を変更でき、処理の流れを視覚的に管理できます。

ActiveImage Protector専用のバックアップストレージを構築



バックアップファイルの安全性の確保（１）

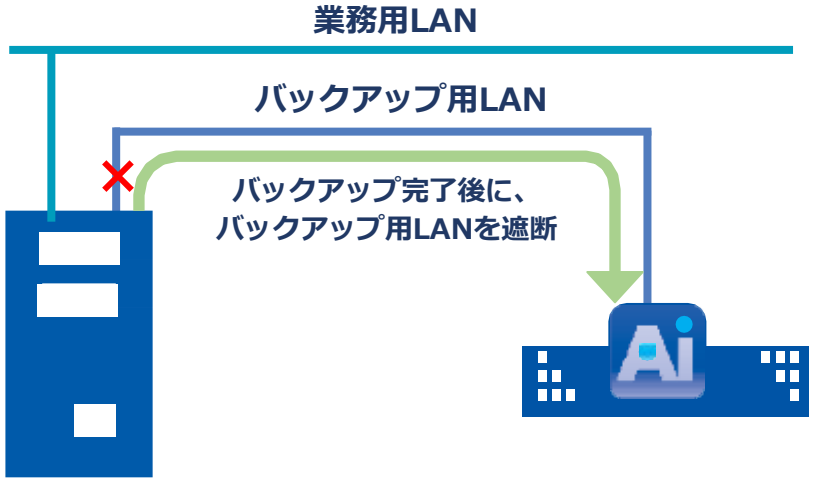
ランサムウェアなどのウイルス攻撃からバックアップファイルの感染リスクを低減

バックアップ保存先の隔離

バックアップ完了後に、保存先のディスクのオフライン化やネットワークを遮断し、ランサムウェアなどのウイルス攻撃から保存先やバックアップファイルを保護する「保存先隔離オプション」が用意されています。保存先隔離オプションは、以下の4つの方法で保存先を隔離します。隔離された保存先は、次回のバックアップ開始時に自動的に開放されます。

- ○ 保存先ディスクからドライブ文字の割り当てを解除
- ○ 保存先ディスクをオフライン化
- ○ リムーバブル USB HDDを取り外し
- ○ バックアップ用LANのネットワークを遮断

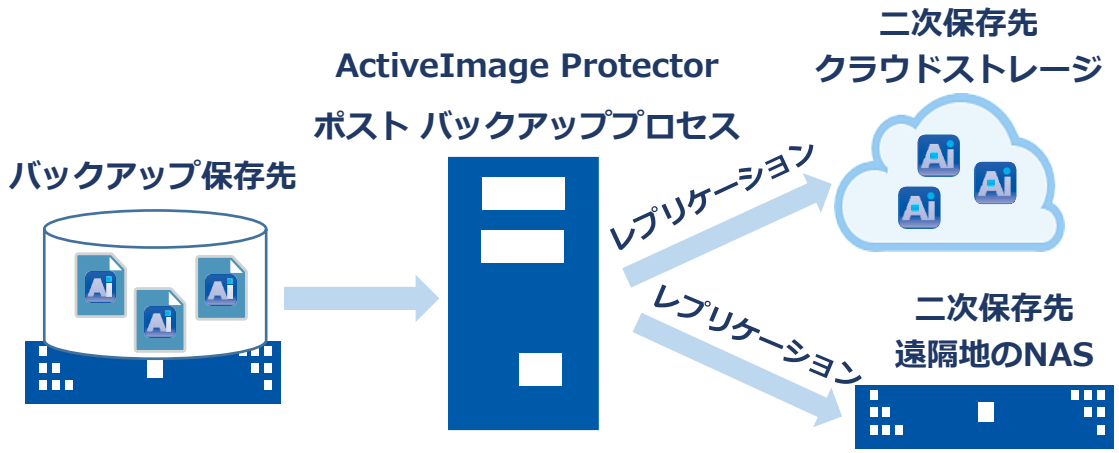
バックアップ用LANの隔離



バックアップファイルの分散保管（ポスト バックアップ プロセス）

作成したバックアップファイルを他の保存先に、スケジュールで二次保存先にレプリケーション（複製）できます。レプリケーション先として、ローカルディスク、共有フォルダー、FTP、SFTP、WebDAV、Amazon S3、Azure Storage、Wasabiといった幅広い保存先を利用可能です。バックアップファイルを分散化することで、バックアップファイルのセキュリティリスクを低減できます。

バックアップファイルの分散保管



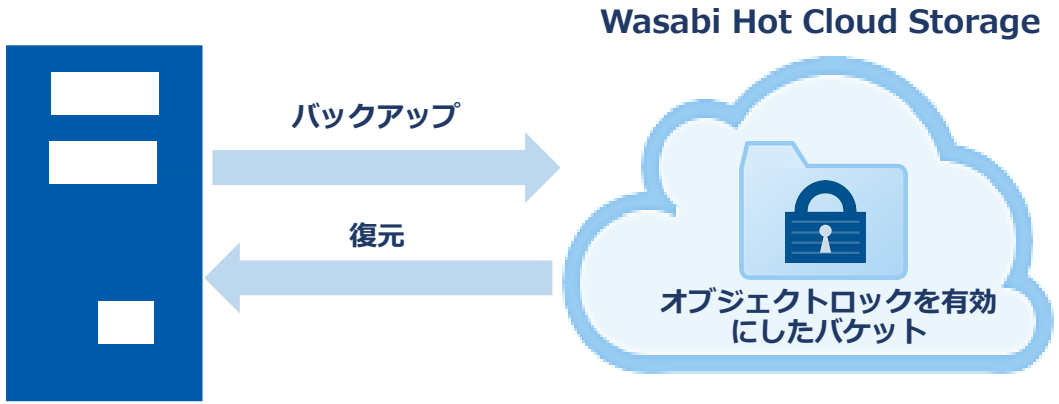
バックアップファイルの安全性の確保（２）

ランサムウェアなどのウイルス攻撃からバックアップファイルの感染リスクを低減

オブジェクトロックを有効にした保存先を利用可能

Wasabi Hot Cloud Storageの、オブジェクトロックを有効にしたバケットを保存先として利用できます。保存先として、ランサムウェアなどのサイバー攻撃に関連するリスクを低減できます。また、一般的なNASと同様に、直接バックアップや保存されたバックアップから直接復元することが可能です。

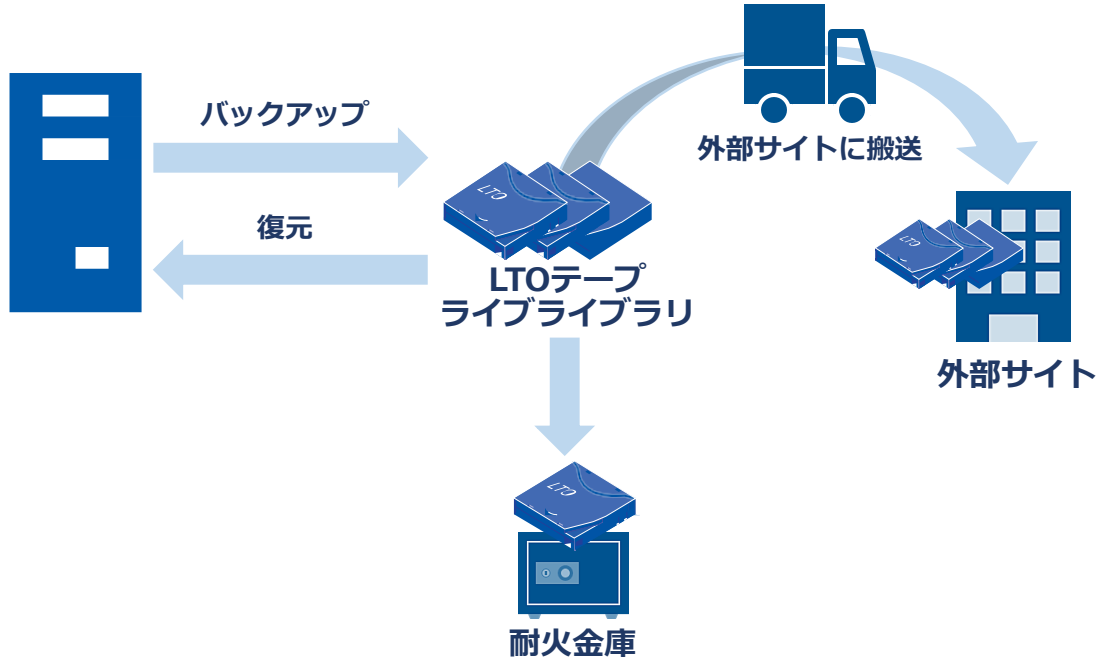
Wasabi Hot Cloud Storageにダイレクトにバックアップ



オフライン保管可能なLTOにバックアップ

オフライン保管可能なLTOテープに、直接バックアップを作成できます。 テープに保管することで、ランサムウェアなどの攻撃からバックアップデータの防御にもなり、セキュリティ対策がとれます。緊急時には、LTOテープに保存したバックアップから、直接、システムの復元が可能です。

LTOテープにダイレクトにバックアップ



バックアップファイルの安全性の確保（３）

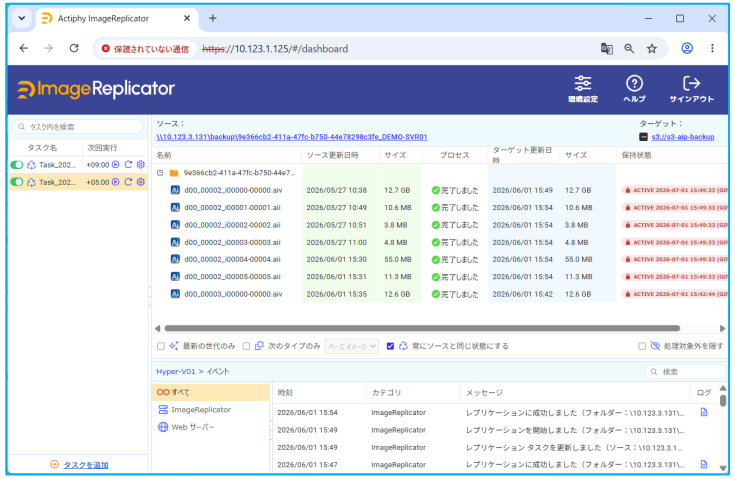
ActiveImage Protector用のレプリケーションツール：Actiphy ImageReplicator

Actiphy ImageReplicatorは、「ActiveImage Protector」で取得したバックアップイメージを、別ストレージや遠隔拠点へ自動的に複製（レプリケーション）するアドオンツールです。バックアップデータを多重化することで、ハードウェア障害や人的ミス、ランサムウェアによる改ざん・暗号化などのリスクから重要なデータを保護し、データ保護と可用性を大幅に向上させます。

日本語Webコンソールによる一元管理と自動化

日本語Webコンソールによる一元管理により、レプリケーション設定・進捗確認・ログ管理・バックアップファイルのコピー／削除などを直感的に操作できます。また、スケジュールによる自動レプリケーションと用途に応じた柔軟な方式選択により手作業を排除し、運用負荷を軽減しながら、安定したバックアップ運用を実現します。

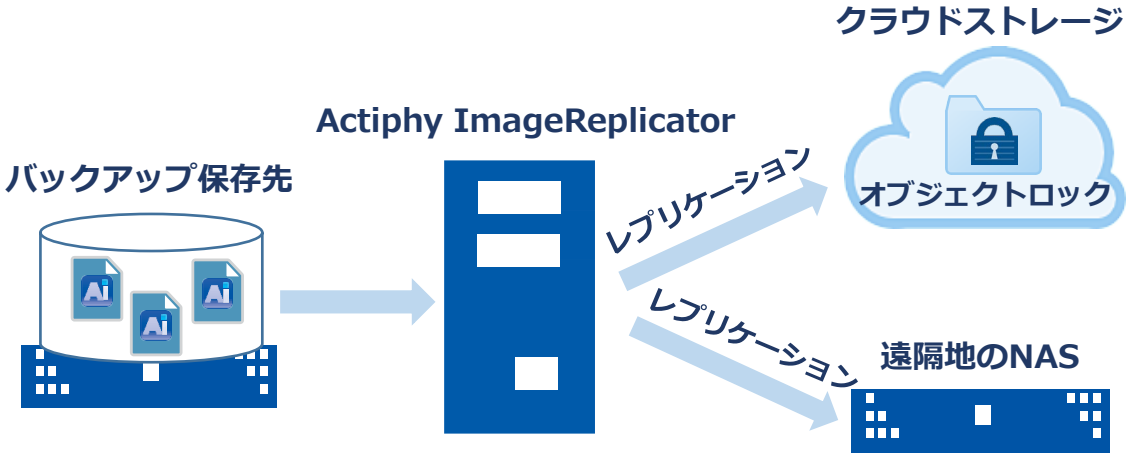
日本語webコンソール



バックアップデータ保護とセキュリティ強化

ローカルストレージやNAS、各種クラウドストレージなど多様なレプリケーション先に対応し、柔軟なバックアップデータの保護構成を実現します。さらに、オブジェクトロックによるイミュータブル保護や二要素認証（2FA）に対応することで、ランサムウェアや不正アクセスによるデータ改ざん・消失を防止し、バックアップデータの安全性を強化します。

バックアップファイルの分散保管

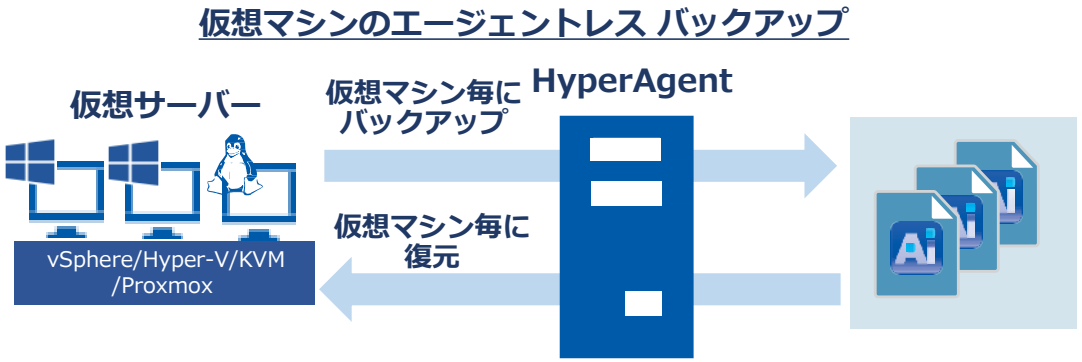


仮想環境への対応（1）

エージェントレスでVMware vSphere、Microsoft Hyper-V、Linux KVM、Proxmoxの仮想マシンを簡単に保護

仮想マシンのエージェントレス バックアップ

ActiveImage Protector Virtual に搭載されている、「HyperAgent」により、VMware vSphere、Microsoft Hyper-V、Linux KVM、Proxmoxの仮想マシンにエージェントをインストールすることなく、仮想マシンごとにバックアップできます。

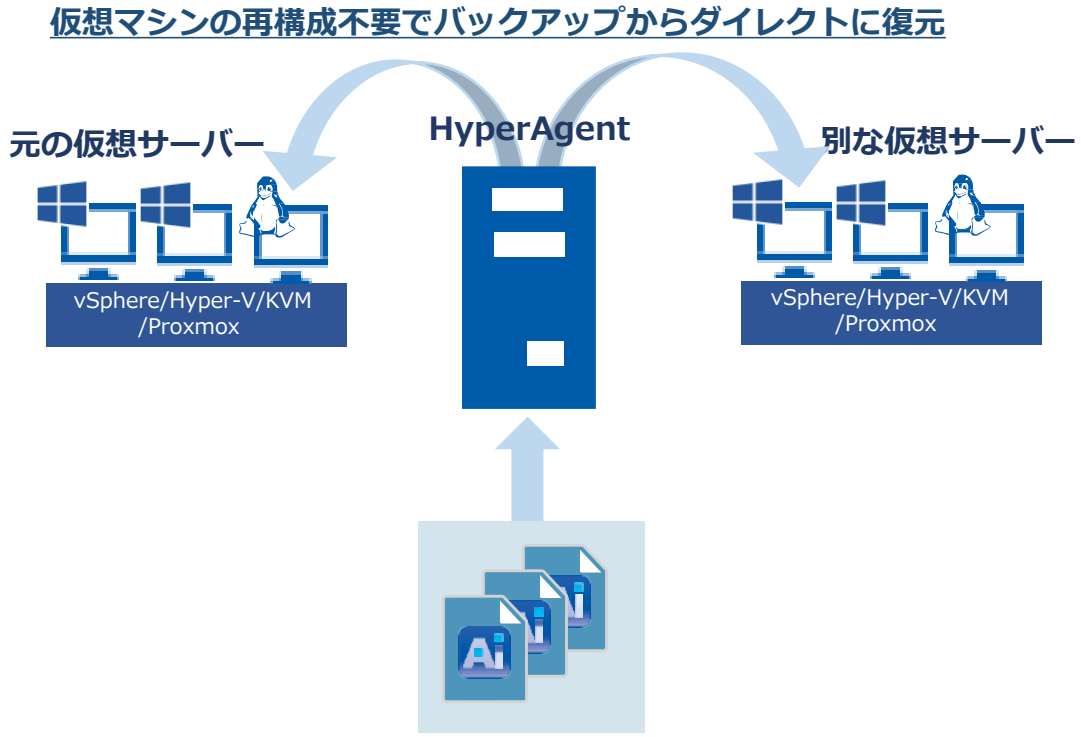


エージェントレス方式のメリット

- ○エージェントのインストールが不要なため導入工数を削減
- ○仮想マシン上でエージェントが動作しないため仮想マシンの負荷軽減
- ○ゲストOSに柔軟に対応可能（Windows Server 2003から対応）

仮想マシン毎に柔軟に復元

緊急時には、復元先の仮想マシンや仮想ディスクを再構成することなく、 バックアップから「HyperAgent」により、仮想マシンを復元できます。また、異なる仮想サーバー上への復元など柔軟な復元が可能ですので、管理者の運用工数を大幅に削減できます。また、特定のファイル/フォルダー単位の復元にも対応しています。



仮想環境への対応（2）

Actiphy

仮想化機能により、簡単にVMware vSphere、Microsoft Hyper-V、Linux KVM、Proxmox環境への移行が可能

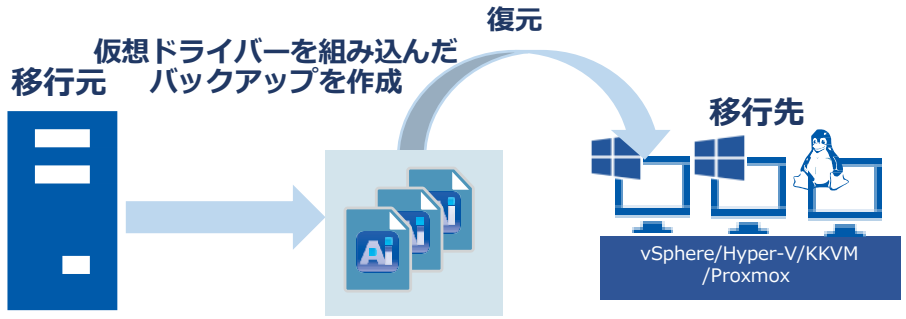
移行元のバックアップから仮想環境へ移行

移行先の仮想ホスト上に、仮想マシンや仮想ディスクを再構成することなく、バックアップから仮想変換した仮想マシンを作成できます。



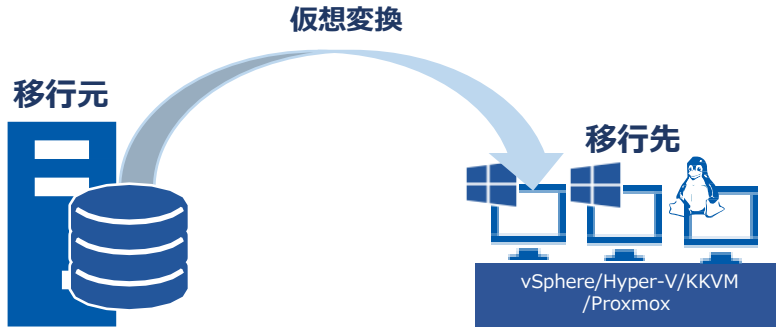
移行元のバックアップから仮想マシンに復元して移行

仮想ドライバーを組み込んだバックアップから、移行先の仮想ホスト上の仮想マシンに復元する方法で移行できます。



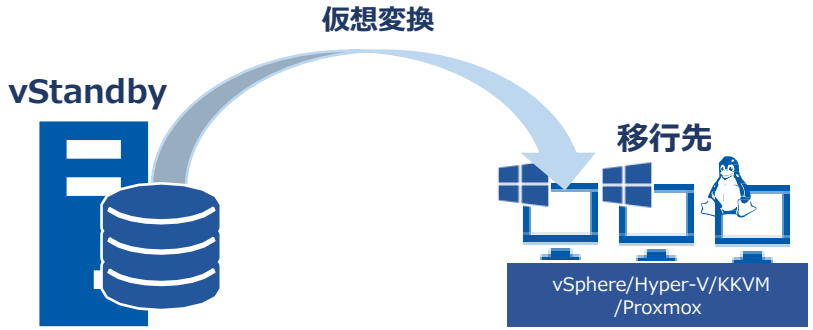
移行元のディスクから仮想環境へ移行

移行元のディスクを指定して、ダイレクトに移行先の仮想ホスト上に仮想マシンを作成できます。



シームレス マイグレーション

標準機能のvStandbyから、移行先の仮想ホスト上に「仮想スタンバイマシン」を作成し、移行直前のディスクの変更箇所を反映した仮想マシンを作成できます。



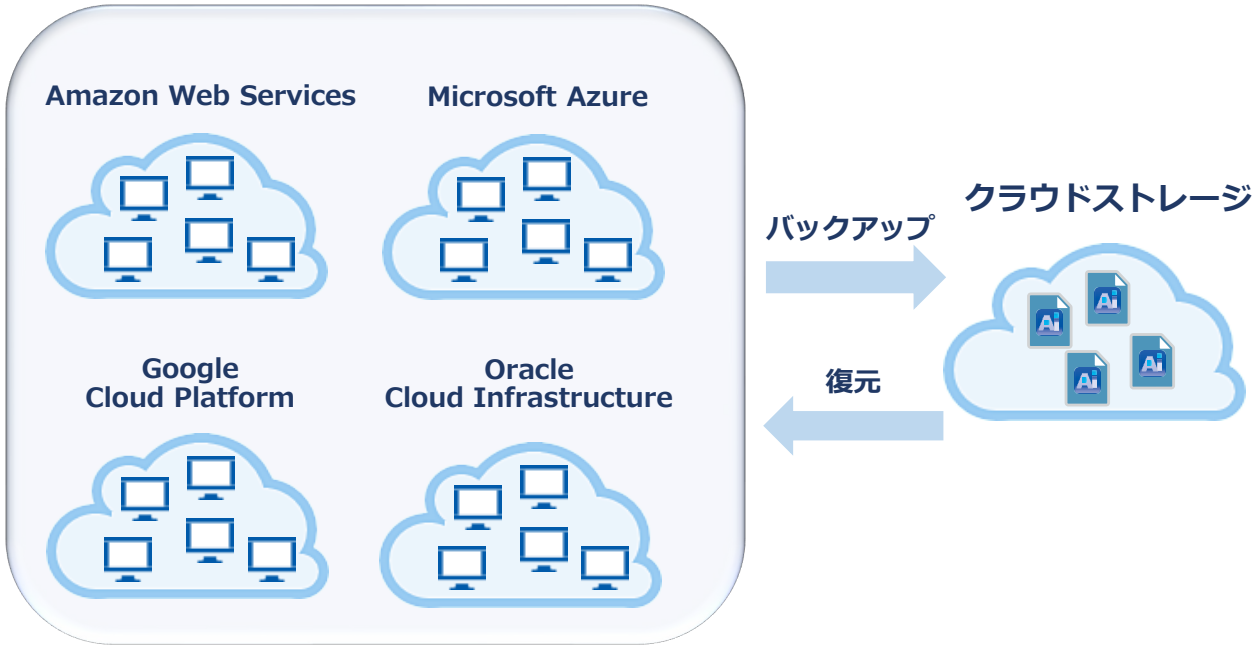
クラウド環境への対応（１）

クラウドのバックアップ/復元に対応

マルチクラウド環境に対応

従来のAmazon Web Services(AWS)、Microsoft Azure(Azure)に加え、Google Cloud Platform(GCP)、Oracle Cloud Infrastructure(OCI)といった、クラウド上の仮想マシンのシンプルで統一されたバックアップ運用を実現できます。

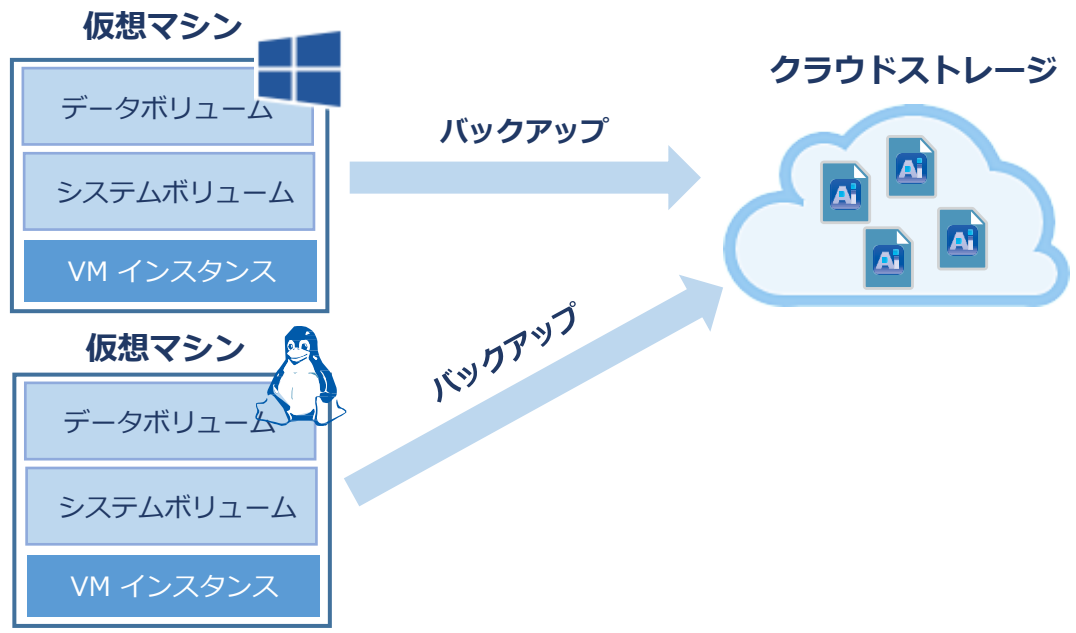
マルチクラウド環境の仮想マシンのバックアップ/復元対応



クラウド仮想マシンのシステム全体をバックアップ

一般的なスナップショット技術を利用したバックアップとは異なり、クラウド上のWindows/Linuxの仮想マシンをディスクイメージでバックアップをおこないます。バックアップの保存先は、クラウド上のVLAN内のクラウドストレージを利用することにより、バックアップ保存先の導入コストを削減することが可能です。また、緊急時には、バックアップから復元して仮想マシンを迅速に復旧できます。

クラウドの仮想マシンをディスクイメージでバックアップ



クラウド環境への対応（2）

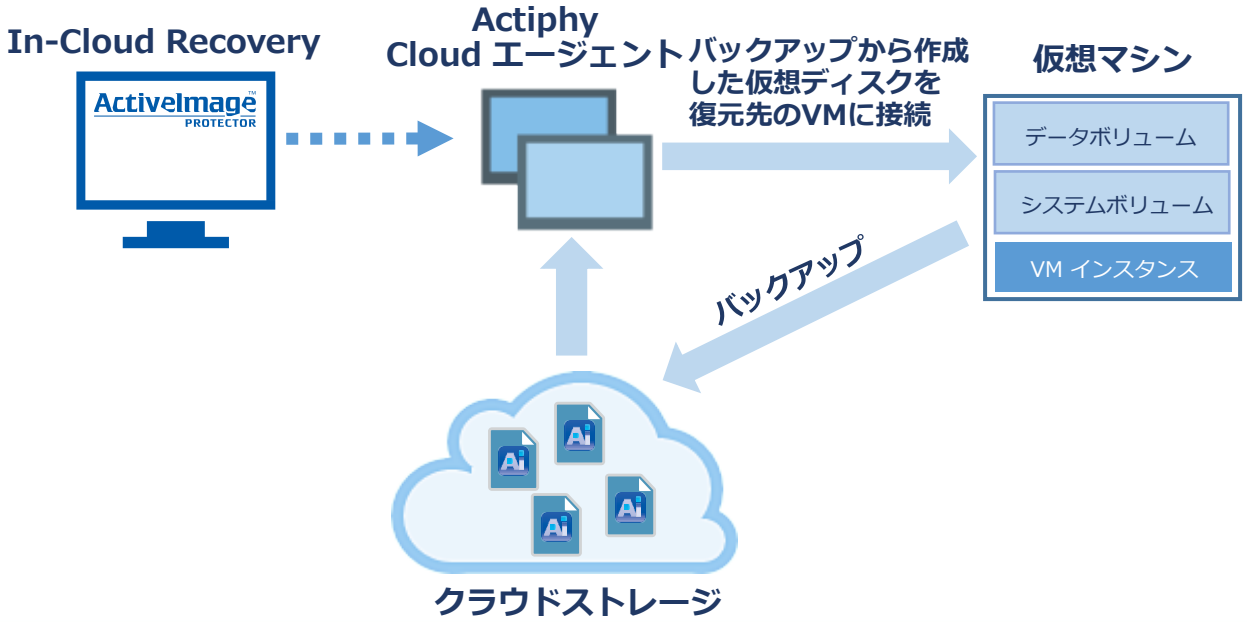
クラウドのバックアップ/復元に対応

クラウドの仮想マシンの復元

「In-Cloud Recovery」から、クラウドのActiphy専用領域に配置してある「Actiphy Cloud エージェント」を起動してシステム全体の復元ができます。復元の際に、クラウドの管理コンソールやコマンドラインなどを駆使した複雑な操作は不要です。また、ファイル/フォルダー単位の復元にも対応しています。

※In-Cloud Recovery™は、Google Cloud、Oracle Cloud環境では使用できません。仮想マシンの復元作業は、RescueBootから起動した起動環境を使用しておこないます。

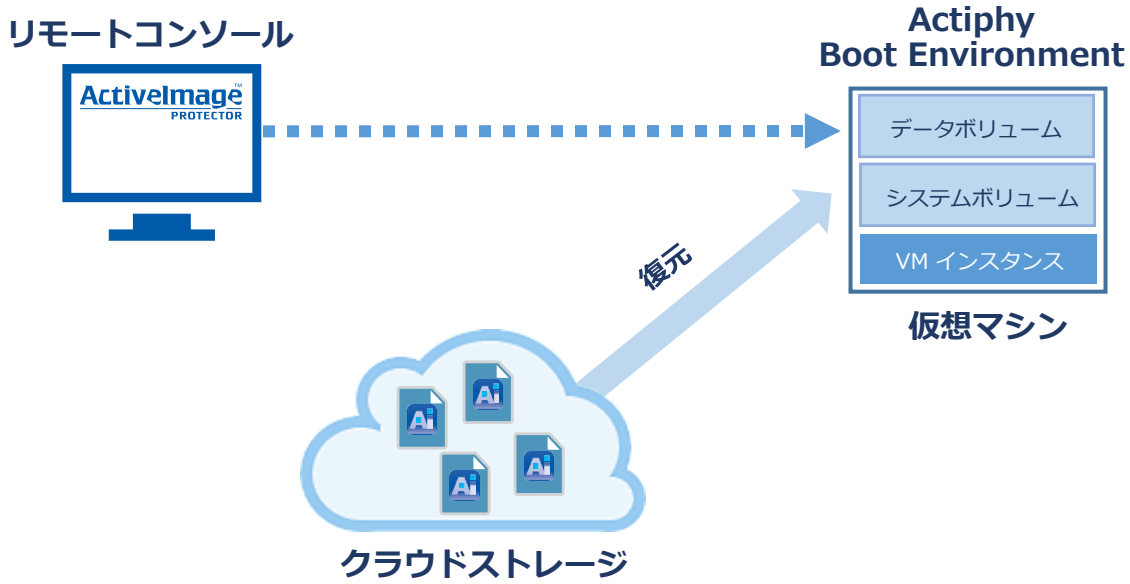
バックアップからクラウドの仮想マシンを復元



起動環境のリモート操作（RescueBoot）

Actiphy Boot Environment（起動環境）の外部メディアを必要とすることなく、内蔵ディスク内に起動環境を作成し、直接起動させることができます。また、RescueBootから起動した起動環境にリモートから接続し、バックアップからクラウド環境の仮想マシンのシステムを復元できます。

リモートからクラウドの仮想マシンを復元

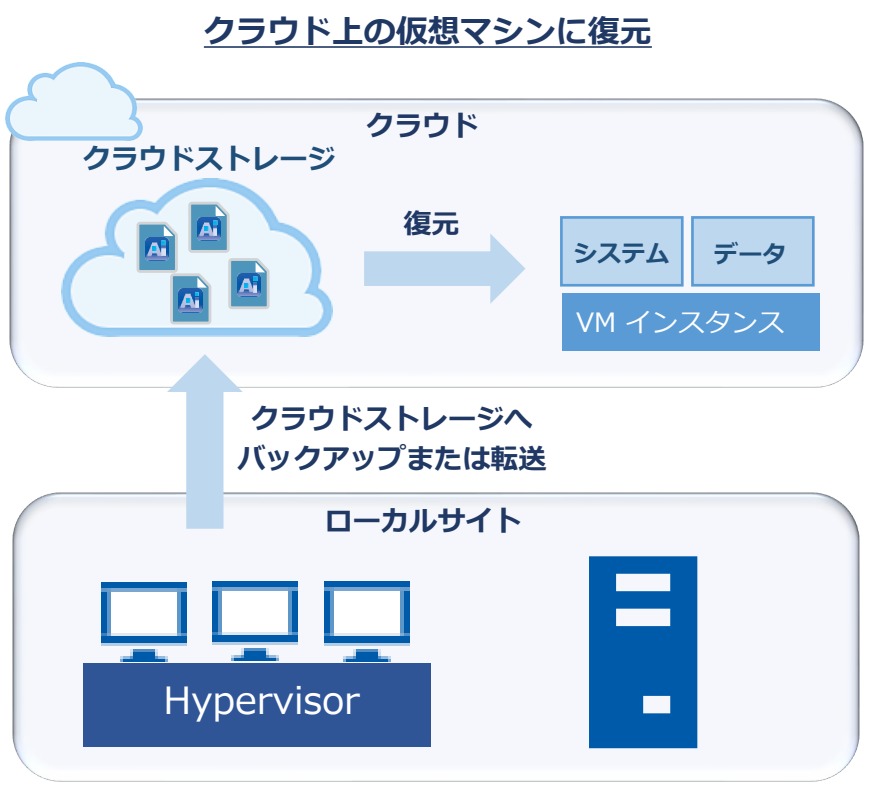


クラウドへの対応のメリット

クラウドをDR（災害復旧）サイトとして活用することも可能

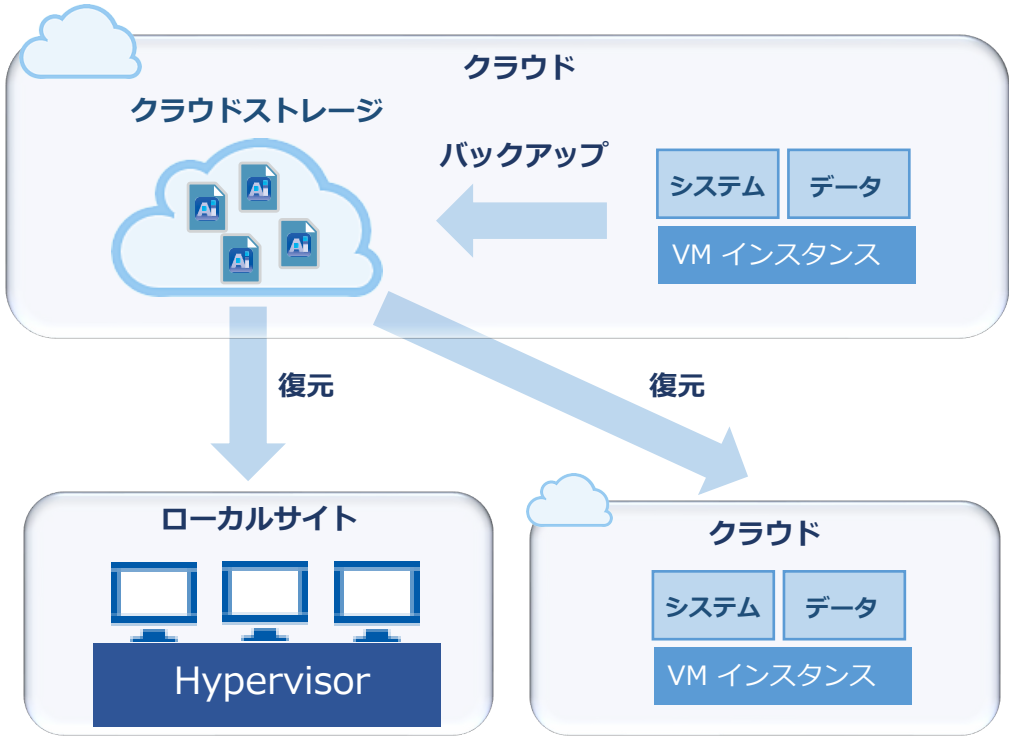
バックアップからクラウド上に復元して復旧

ローカルサイトの物理/仮想マシンの保存先として、クラウド ストレージに直接バックアップ、またはレプリケーションしておき、緊急時には、一時的にバックアップからクラウドの仮想マシンに復元して復旧が可能です。



クラウドの仮想マシンをオンプレミス環境に移行

クラウドの仮想マシンのバックアップから、オンプレミスの仮想マシンまたは異なるクラウド上の仮想マシンに復元できます。一時的に運用しているクラウドの仮想マシンの移行にも使用できます。



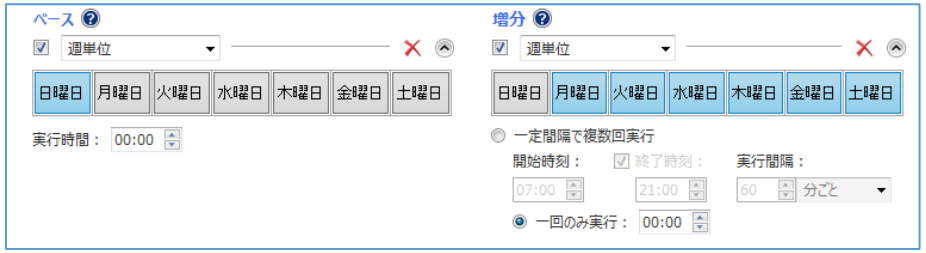
柔軟なスケジュールバックアップ

自由度の高い柔軟なバックアップ スケジュール設定

ActiveImage Protectorのバックアップのスケジュール設定は、「週単位」「月単位」「指定日時」「指定曜日」と柔軟な設定が可能です。

○週単位の設定例

週末にフルバックアップを作成し、平日に増分バックアップを作成するスケジュール設定ができます。増分バックアップは1日に複数回実行できます。



○指定曜日の設定例

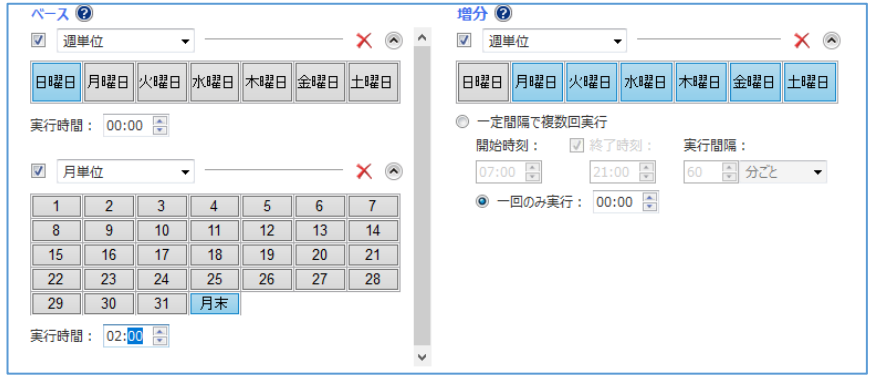
毎月第一日曜日にフルバックアップを作成し、その他の平日は増分バックアップを作成するスケジュール設定できます。



スケジュールを組み合わせた設定も可能

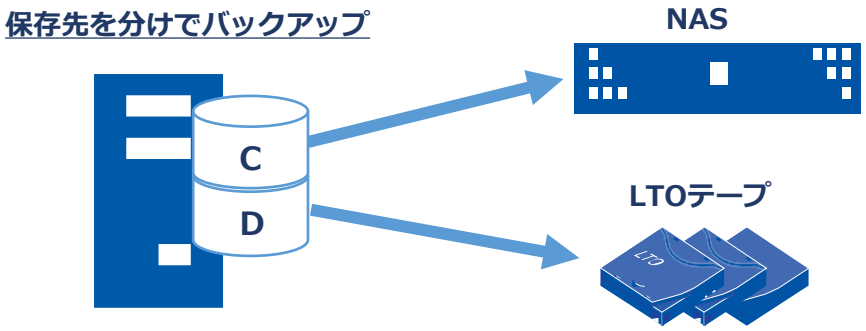
○マルチバックアップ スケジュール設定例

基本は週単位でバックアップを作成して、月末にはフルバックアップを作成するようなスケジュールを組み合わせた設定も可能です。



○マルチバックアップ タスク設定例

複数のバックアップタスクの作成が可能です。例えば、CドライブはNASに、DドライブはLTOテープにと、保存先を分けてバックアップを作成することができます。



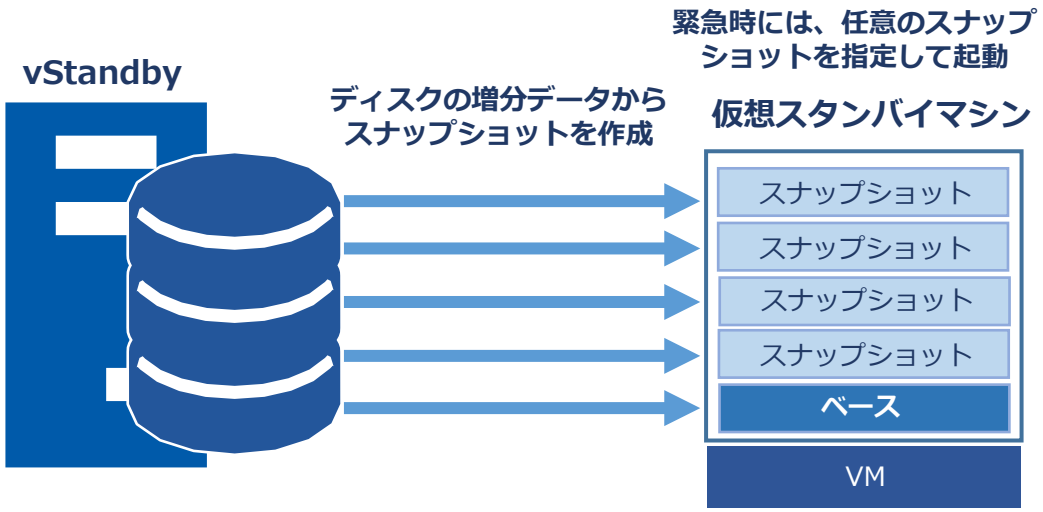
システムの冗長化

RTO（復旧時間）を考量した機能も標準で搭載

ディスクから仮想スタンバイマシンの作成

緊急時に、大容量のバックアップからの復元には多くの時間がかかる場合があります。 標準機能の「vStandby」により、対象マシンのディスクを指定してスケジュールで自動的に、 VMware vSphere、Microsoft Hyper-V、Linux KVM、Proxmox上に「仮想スタンバイマシン」を作成できます。緊急時には、待機用に作成されたスタンバイ仮想マシンを起動するだけで、業務の継続が可能です。HAシステムに近いシステムをより身近に導入できます。

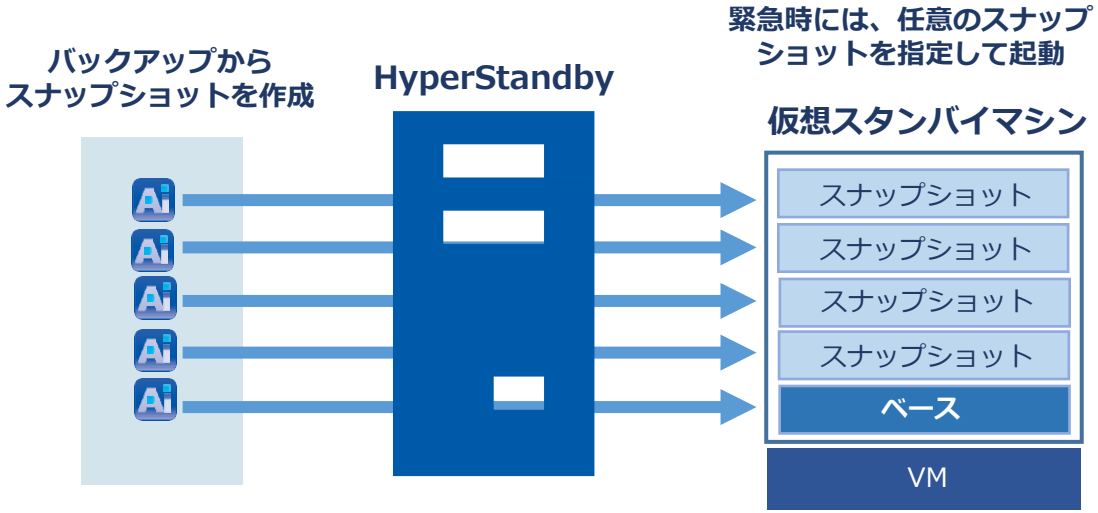
ディスクから仮想スタンバイマシンを作成



バックアップから仮想スタンバイマシンを作成

標準機能の「HyperStandby」によりバックアップから、スケジュールで自動的に、VMware vSphere、Microsoft Hyper-V、Linux KVM、Proxmox上に「仮想スタンバイマシン」を作成できます。たとえば、バックアップを定期的にリモートサイトに転送し、リモートサイトに「仮想スタンバイマシン」 を構成することが可能です。緊急時には、待機用に作成された仮想スタンバイマシンを起動するだけです。災害対策を意識したバックアップ運用をローコストで実現できます。

リモートサイトでシステムを復旧



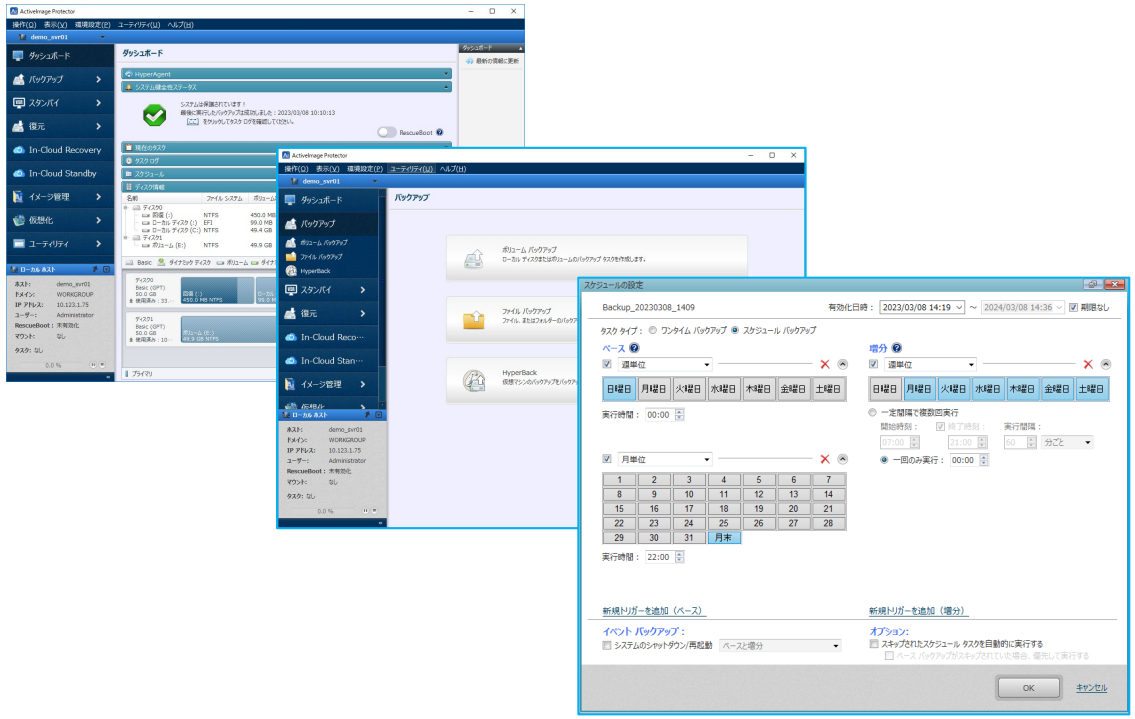
簡単かつ効率的な管理

直感的で分かりやすい日本語GUIコンソール

ウィザード形式の簡単なバックアップ/復元操作

システムの健全性、これまでに実行したタスク ログ、スケジュール設定の管理をおこなうコンソールが用意されています。バックアップ設定や復元操作など、ウィザード形式で作業をより簡単かつ効率的におこなうことができます。

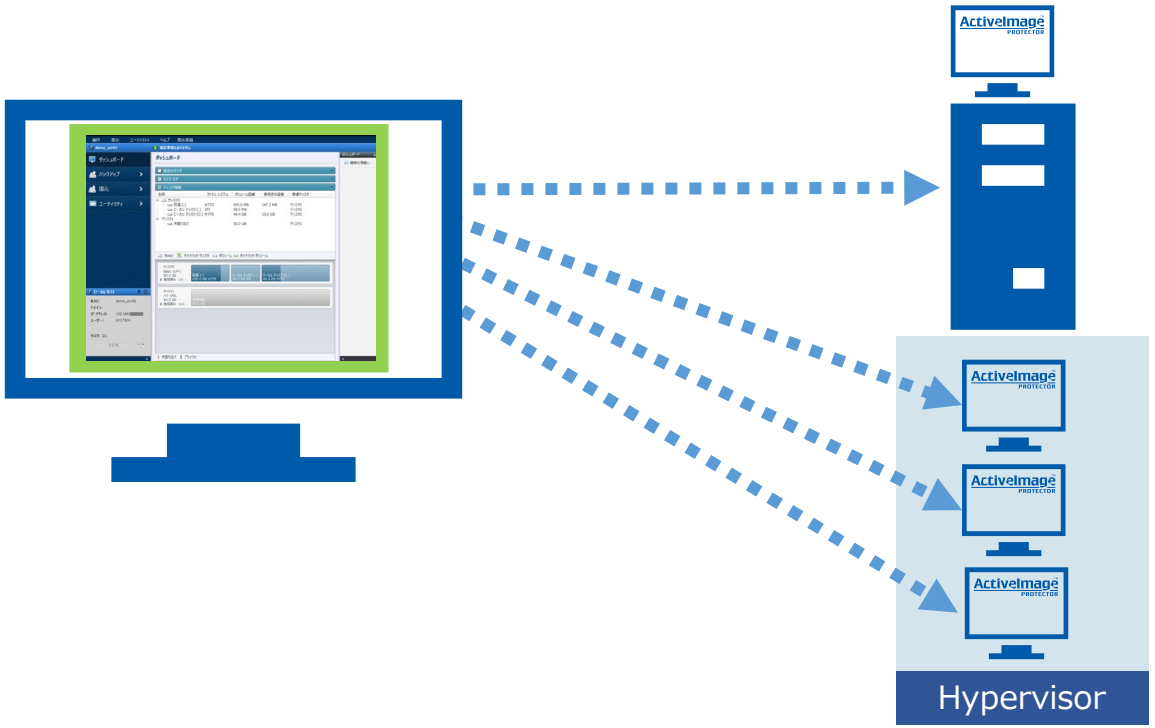
ActiveImage Protectorのコンソール



リモートコンソールを実装

リモートコンソールから、ActiveImage Protector™のエージェントがセットアップされたコンピューターをリモートから管理できます。リモートコンソールは、ネットワーク上の複数のエージェントのバックアップタスクの状況やスケジュールされているバックアップタスクの実行などをおこなえます。

リモートからActiveImage Protectorの操作・管理



参考資料

◆ **製品概要**
https://www.actiphy.com/ja-jp/product/

◆ **機能比較表**
https://www.actiphy.com/ja-jp/comparison/actiphy_activeimage_protector_functional_comparison_editions

◆ **システム要件**
https://www.actiphy.com/ja-jp/support/system-requirements/

◆ **サポート情報（ナレッジベース）**
https://actiphyhelp.zendesk.com/hc/ja/sections/13451048765081

お問い合わせ先

株式会社 アクティファイ
E-mail: sales@actiphy.com
Tel: 03-5256-0877

Actiphy
株式会社 アクティファイ

www.actiphy.com